旭川市
井上靖記念館報
平成25年6月1日発行／第13号
協賛：井上靖記念文化財団

河井さんの茶碗

浦　城　いくよ
（井上靖記念館特別相談役・井上靖長女）

母によると「靖が戦争から戻り、大阪毎日新聞社に復帰して大阪府茨木町に引越をして間もない頃、河井寛次郎さんから『普段にお使いください』と夫婦茶碗を頂いた。茶碗は箱には入っておらず、ちょっとした紙に包まれていたように思う」と云っていた。従って箱書きもない。頂いたのは夫婦茶碗で少し大小があり、それぞれに何の形か分からない同じ模様が描かれていた。陶器は磁器とは違い肉厚で、ピンクがかった薄小豆色の地に濃い色のはっきりした図柄で花のようでもあり、トンボのようにも見える河井寛次郎特有の模様が描かれている。

茨木の家は玄関から直接階段を上って左側に父の書斎があり、確か六畳だったと思うが、何処へ行ってしまったのか今はない赤い塗のテーブルの上にはお茶の入った「河井さんの茶碗」が置かれていた。

父が持っていた美術品と称される品々の中でこの夫婦茶碗は一番古くからあったものではないかと思う。井上家にある河井寛次郎の作品は「河井さんの花瓶」「河井さんの灰皿」とすべて「河井さんの……」と父母をはじめ、家族はみな呼んでいた。

昭和十九年後半あたりから戦争も激しくなり、食糧難や疎開やらと日本中が大変な時代に入っていった。大切な「河井さんの茶碗」もいつの間にか何処かへ片づけられてしまった。

終戦後、芥川賞を頂いてからの父はもう命がけでいつも机に向かっていた。朝ご飯の前に書斎の籐いすでまず一服し、机に向かって書いている時、お客さんの応対をしている時、いつもこの「河井さんの茶碗」で飲んでいた。何千回も何万回も茶碗は父の所を往復した。母はもちろんの事、お手伝いさん、私、妹も書斎や応接間へお茶を運んだ。熱かったりぬるかったり、濃かったり薄かったりと父からすればいろいろだったろうが、濃茶や薄茶、煎茶などだった。茶碗の周りが少し小さく欠けているのはそれだけお茶碗がよく働いたしるしである。

父が河井寛次郎の作品をこれだけ大切にし、愛した理由の一つには河井さんの人柄にあった。河井さんはいつも自分の感じたこと、考えたことを自分の言葉で話され、自分の見方で述べられた。お客さまに対しては、有名な客にも無名の客にも区別はされず、対等だった。一つの事を論じると相手が年長であろうと年下であろうと本気で向かってこられた。こうした人柄に父は魅せられたのである。父もまた人に対して決して上下をつけることはしなかった。

父が亡くなってから、井上靖展が方々で開催され、この茶碗たちは何回も出品され、いつも二個一緒だった。何十年も仲良く一緒に暮らして信じあった夫婦の落ち着きを茶碗はかもし出していた。本当の夫婦茶碗であった。

ところがある日、二つ並べて置いてあった応接間から突如として一個の茶碗が消えてしまい、私たちを驚かせた。

旭川市井上靖記念館に納めるに当たり、残った一つに河井さんの一人娘さんの須也子さんに鑑定をお願いして箱書きを書いて頂いた。それには「花文碗」と書いてある。父が頂いた時から箱はなく、手渡しで頂戴したものだったので、やっと住み家のできた茶碗は、現在は記念館の書斎のガラス戸棚の中に納まって、今度は展示品として活躍している。

レースのついたクッション

片側の壁面が本で囲まれた広い応接間に並んだサイドチェアーの上には小さな四角いクッションと小さな丸いクッションが並べて置いてある。

四角いクッションは父が亡くなってから、母が父の友人の娘さんである伸子さんから頂いたもので、「二個をペアーにして差し上げることにこだわりました」と言われた。

丸型のクッションもまた父亡き後、母はやはりペアーで頂いているが、これはどなたから頂いたものなのか、どういうクッションなのか母亡き今となっては誰もわからない。いずれも心のこもった、お洒落なクッションであることには違いない。母は古いものはその良さを理解し、とても大切にする人だった。この二種類のクッションは普段使用するものではなく、飾りにおくもので、質と型の全く違う四つのクッションはなぜかとてもよく調和している。

レースのついた四角いクッションにまつわる話とレースの歴史について簡単に記してみたい。

クッションを下さった伸子さんにはイギリスのものを中心にアンティークのレースを集めているオーストラリア人の友人がいた。その友人のレースを見たり、触ったりしているうちにご自身もレースに惹かれてゆき、イギリスへアンティークレースを何回か買い付けに行かれた。

応接間に置いてあるクッションに使用されたレースはその時のもので、ベネチアで作られた古いレース。モチーフとモチーフの間をポツポツとした柄でつないでいる。これはニードルレースの証しとのこと。

レースを囲んだ紺地の布は蔵にあった古い結城紬の着物をつぶして作ってもらったものだそうで、和と洋の古い布地の組み合わせが素晴らしいクッションに仕上がっている。

十五―十六世紀、イタリアのベネチアを発祥の地として以後百五十年位はベネチアレースの黄金時代であり、身分の高い男女や聖職者たちがこぞって身につけていたのは厚手の高級なレースであった。十六世紀の半ばには沢山のレースのカタログがベネチアで発行され、商人たちによりヨーロッパの各地に伝わり、ベネチアで流行したものは直ちにアントワープやパリ、ロンドンに伝わっていた。イタリアのメディチ家からフランス王家へ嫁いで行ったカトリーヌ王妃がフランスに他のイタリア文化とともにレースの文化も伝えたとされている。ベネチアに近いブラーノ島で作られたベネチアンポイントは美しいレースの象徴と言われ、船でしか行き来ができない島は技術が盗まれない利点があり、近年までレースの学校もあったそうだ。

十六世紀頃の絵画や写真を見ると高貴な男女の服の襟や袖などがレースで飾られているのをよく見かける。

クッションを下さった伸子さんの父上会田宗太郎氏は私の父靖と第四高等学校の理科で一緒だった方。父は柔道部、会田さんはラグビー部と部こそ違ったが、二人の四高生が作詞、作曲したという「南下軍の歌」を遠征前夜や出発の駅頭などで歌って試合に送り出された南下軍の戦士だった。

のちに会田さんは東北大学を卒業されて病院勤めのあと郷里の福島県矢吹町で病院を開業され、当時、難病中の難病だった肺結核に全身全霊で取り組まれた方で、八五歳で逝去された。父の柔道部の友人で、会田さんのクラスメートであった共通の友人、曽根徹氏は皆から「ソニアン」と呼ばれ、私も「ソニアン」さんを覚えているが、父の作品「あした来る人」に主人公曽根二郎として登場している。この曽根さんともう一人の共通の友人である多田さんに誘われて初めて福島の会田邸を訪問し、病院を案内された。帰宅後「すごい病院を見てきたよ」とおよそ病院とは縁のなかった父なので、何を見てきたかよく分からないが、とにかく感心をして皆に夢中で話をしていたのを思い出す。この最初の訪問の時、まだ若かった伸子さんが「東北本線黒磯駅までお迎えに行きました。」とおっしゃっている。

「私の父は四高出身です」と言われると不思議なことにとても親しみを覚える。父の四高時代の友人の娘さんとは伸子さん以外にも何人もの方と親しくしている。四高という学校のご縁で、アンティークレースのついたクッションは旭川の井上靖記念館に収まっている。

平成24年度事業報告　企画展

共催
井上靖記念文化財団

第一回企画展

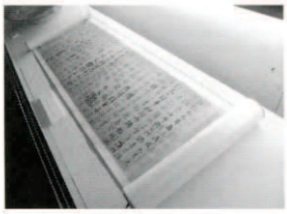
井上靖　書斎・応接間展
六月二日(土)～八月十九日(日)

◆**趣旨**

当館に移転した書斎や応接間に展示している書籍等について詳しく紹介しました。

◆**展示の主な内容**

①書斎での井上靖の写真と愛用品。
②応接間から文学・歴史・古典・郷土資料。
③時代小説と武将の動き、勢力図について。
④『敦煌』『楼蘭』に関する西域・中国の文学・歴史資料。
⑤応接間からイラン出土の瑠璃碗、青釉刻線の鉢、顔真卿の書『祭姪文稿』。東山魁夷、河井寛次郎、顔真卿についての随筆。



◆**観覧者数**

一般　一六三九人／高校生　九人
中学生以下一七七人／免除一〇五五人
合計　二八八〇人

第二回企画展

井上靖　人と文学Ⅱ展―柔道から詩へ―
八月二十五日(土)～十月二十八日(日)

◆**趣旨**

自伝的小説『北の海』に描かれた柔道部生活と退部後に始めた詩や小説などの創作活動や、小説と同名の詩、小説に内容を取り入れた詩の紹介をしました。

◆**展示の主な内容**

①『夏草冬濤』『北の海』に描かれた日々を写真と小説で紹介。
②『日本海詩人』『焔』『北冠』へ投稿した初期の詩篇。
③『日本海詩人』を主宰していた大村正次と旭川東高校。
④小説の母体となった詩。
⑤自作の詩の内容を取り入れた小説。

◆**観覧者数**

一般　一〇六一人／高校生　九人
中学生以下一一五人／免除　五九六人
合計　一七八一人

第三回企画展

井上靖と万葉の世界展
十一月三日(土)～一月十三日(日)

◆**趣旨**

『額田女王』と『夜の声』の中で扱っている万葉集の名歌と時代背景を紹介しました。

◆**展示の主な内容**

①『私の自己形成史』より引用し、井上靖の『万葉集』との出会いを紹介。
②『夜の声』の登場人物と『万葉集』から歌が引用されている場面の紹介。
③『額田女王』とその時代。『万葉集』から歌が引用されている場面の紹介。
④『星と祭』と挽歌の世界。『万葉集』の挽歌と関連する『星と祭』の表現を紹介。

◆**観覧者数**

一般　七一〇人／高校生　二人
中学生以下　四四人／免除　三七四人
合計　一一三〇人

第四回企画展

井上靖　人と文学Ⅲ展―新聞記者時代―
一月十九日(土)～四月二十一日(日)

◆**趣旨**

井上靖は京都大学卒業後、大阪毎日新聞社に入社し、昭和二十六年に退社するまでの十五年間、主に美術、宗教欄担当の記者として活躍しました。記者時代に執筆した記事の紹介と、記者としての体験が彼の作品にどのように反映しているかを紹介しました。

◆**展示の主な内容**

①新聞記者時代の井上靖と新聞記事。
②『美しきものとの出会い』の紹介。
③『忘れ得ぬ芸術家たち』の紹介。
④小説『闘牛』『黯い潮』の世界。

◆**観覧者数**

一般　二五六人／高校生　一人
中学生以下　三三人／免除　三五三人
合計　六四三人

企画展関連事業

井上靖講座

開催中の企画展の見どころの紹介や解説を行いました。

①井上靖　書斎・応接間　六月十六日（土）
②井上靖　人と文学Ⅱ　九月八日（土）
③井上靖と万葉の世界　十一月十七日（土）
④井上靖　人と文学Ⅲ　二月二日（土）

自主事業

井上靖短編小説を読む（全五回）

井上靖の短編小説を取り上げ、朗読と解説を行いました。

①『グウドル氏の手套』　五月十九日（土）
②『宦者中行説』　七月七日（土）
③『信康自刃』　九月二十二日（土）
④『帽子』　十二月十五日（土）
⑤『幽鬼』　三月九日（土）

朗　読　塩尻曜子氏（井上靖ナナカマドの会会員）
講　師　当館職員

北の文芸館～井上靖スペシャル

共催／ＮＨＫ旭川放送局

井上靖作品の朗読と音楽のセッションを行いました。朗読では、井上作品の中から旭川や北海道について記されている部分を主に取り上げ、効果的な音楽と相まって観客は魅了されていました。

と　き　五月二十七日（日）
ところ　旭川市民文化会館小ホール
朗　読　ＮＨＫアナウンサー
演　奏　大平まゆみ氏（バイオリニスト）

対談　今語られる『氷壁』の真実

小説『氷壁』の主人公のモデルとなった登山家の石原國利氏と静岡県の井上靖文学館館長松本亮三氏を招いて対談を行いました。『氷壁』の取材をとおして親交を深めた井上靖について、当時の写真を交えながら、様々なエピソードをお話しいただきました。

と　き　六月二十三日（土）
講　師　石原國利氏（『氷壁』主人公モデル）
　　松本亮三氏（井上靖文学館館長）

夏休みおはなし会

井上靖作の『七月の海』や、子供達にとって珍しい絵本など一回目は七作品、二回目は八作品の語りや読み聞かせを行いました。

個性豊かな語りや読み聞かせで、子供達はお話の世界に引き込まれていました。

①と　き　七月二十六日（木）
　講　師　旭川おはなしの会の皆さん
②と　き　七月三十一日（火）
　講　師　福田洋子氏（こども冨貴堂店長）
　　こども冨貴堂の皆さん

ロビーコンサート

ギターアラカルト、朗読、歌とギターの三部構成でコンサートを行いました。

軽妙な司会進行とギターの調べと、『春を呼ぶために』など個性的な朗読が印象に残るものとなりました。

と　き　八月二十五日（土）
ギター　笹野正行氏／声　楽　菅原嘉宣氏
朗　読　小川恵理氏

ひつじのぱたぽん　おはなしのじかん

子供から大人まで楽しめる絵本の読み聞かせやパネルシアターなど、本の世界を広げる催しを行いました。

パネルシアターでは、井上靖作の童話『くもの巣』を題材とし、時を経ても色褪せない井上靖の童話の世界に魅了されました。

と　き　十月二十日（土）
講　師　高橋典枝氏（おはなし「ぱたぽん」）

耳でたのしむ読み語りの世界

井上靖の童話『銀のはしご』他全四作品の読み語りを行いました。メンバーの息のあった語りに参加者は物語の世界に浸っていました。

と　き　十月二十七日（土）
講　師　読み語りの会　空とぶペンギン
　　～声の贈りもの～の皆さん

文学講座

井上靖の作品への理解を深めるため、講師をお招きし、現代文学・古典文学・歴史という多方面からの考察や解説を行っていただきました。

①「一枚の絵」の中の父母
　　―子としての井上靖
と　き　九月十五日（土）
講　師　石本裕之氏（旭川工業高等専門学校教授）

②井上靖の万葉集―夜の声をめぐって―
と　き　一月十二日（土）
講　師　伊藤一男氏（北海道教育大学教授）

③井上靖―小説の方法―
と　き　一月二十六日（土）
講　師　片山晴夫氏（北海道教育大学教授）

大人のためのおはなし会

ロシア、インドや日本の昔話や民話、八話の語りを行いました。

日本とロシアの『ゆきむすめ』や岩手と新潟の『かさ地蔵』の聞き比べも楽しく、身振り手振りで語られるお話に、参加者は引き込まれるように聞き入っていました。

と　き　二月二十一日（水）
講　師　旭川おはなしの会の皆さん

▲井上靖講座②

▲北の文芸館

▲夏休みおはなし会①

井上靖短編小説を読む②▼

今語られる『氷壁』の真実▼

夏休みおはなし会②▼

共催事業

赤い実の洋燈読書会

共催／赤い実のランプふぁんクラブ

とき　毎週土曜日
開催回数　三十六回
テキスト
①『敦煌』　②『西域物語』
③『四角な船』　④『夜の声』

共同展示

井上靖『小磐梯』の世界展

会期　三月一日（金）～三月三十一日（日）

全国文学館協議会では、当館を含め四十一館の加盟館が参加した「文学と天災地変」という共通テーマの元に、各地で同時発生的に展示を行いました。

当館では、明治二十一年の大爆発によって崩壊、消滅した山、小磐梯を舞台に展開している井上靖の小説『小磐梯』の世界を紹介しました。

連携事業

北海道教育大学　大橋賢一准教授の協力のもと、初めての試みとして、当館と北海道教育大学が連携した事業を行いました。

大橋准教授が担当する「人文科学入門」の八回の講義の中で、グループごとに「井上靖記念館活性化プロジェクト」を企画立案し、プレゼンテーションを行い、その後当館ラウンジで展示しました。

第一回　井上靖記念館　青少年エッセーコンクール

本コンクールは、東京世田谷にあった井上靖の書斎・応接間が、生まれ故郷である北海道旭川に移転再現されたことを記念し、青少年の文学への関心を高めるとともに、詩人であり小説家、また優れたエッセイストでもあった井上靖の作品を後世に読み継ぐことを目的として、北海道新聞社と共催し、昨年度から開催しています。

応募総数二六〇編の中から厳正なる審査の結果、優秀作品十二編を選考し、表彰しました。

表彰式後、審査員長の吉増剛造氏による記念講演会を行いました。

優秀作品は表彰式から一か月間、当館にて展示しました。

テーマ　「母を語る」
募集対象　全国の中学生・高校生とこれに準じる年齢の青少年
募集開始　八月三十一日
募集締切　十一月二十八日
（当初十一月十日締切を延長）
一次審査　中学生の部十四編、高校生の部十六編を選考。
最終審査　十二月十六日
表彰式及び記念講演会　一月二十日
審査員長　吉増剛造氏（詩人）
審査員　平原一良氏（北海道立文学館副館長）
竹田　智氏（北海道新聞社文化部長）

	各賞	タイトル	氏名
中学生の部	最優秀賞	僕の大切な母	名取　大樹
	優秀賞	私の母、母への思い	芳賀　流氷
		母の言葉	木村まなみ
	佳作	母との微妙な関係	小杉　莉香
		母について	岡本歩奈実
	井上靖ナナカマドの会賞	時を刻む～母の想い～	藤堂　衿菜
高校生の部	最優秀賞	私の母	佐藤　有紗
	優秀賞	私の母	庄司　笑香
		私の母親たち	青木　小梅
	佳作	幸せな人生	池田　逸希
		共に、手を取り合って	眞嶌　名奈
	井上靖ナナカマドの会賞	母の冗談	堀下　翔

▲審査会

▲記念講演会

表彰式▼

展示風景▼

▲ロビーコンサート

▲おはなしのじかん

▲第一回文学講座

▲第三回文学講座

▲井上靖『小磐梯』の世界展

ロビーコンサート（朗読）▼

耳でたのしむ読み語りの世界▼

第二回文学講座▼

大人のためのおはなし会▼

北海道教育大学による展示▼

平成24年度のあゆみ

□5月3日　井上靖邸書斎・応接間移転オープン記念
　～4日　ミニコンサート
□5月5日　赤い実の洋燈茶会
□5月6日　記念講演会「家と井上靖」
□5月19日　井上靖短編小説を読む①『グウドル氏の手套』
□5月27日　記念朗読会「北の文芸館～井上靖スペシャル」
□6月1日　無休開館（～9月30日）
□6月2日　企画展「井上靖　書斎・応接間」展（～8月19日）
□6月16日　井上靖講座①「書斎・応接間」
□6月23日　対談「今語られる『氷壁』の真実」
□7月7日　井上靖短編小説を読む②『宦者中行説』
□7月26日　夏休みおはなし会①
□7月31日　夏休みおはなし会②
□8月6日　旭川市井上靖記念館運営協議会①
□8月25日　企画展「井上靖　人と文学Ⅱ」展（～10月28日）
□8月25日　ロビーコンサート
□9月8日　井上靖講座②「人と文学Ⅱ」
□9月15日　文学講座①「一枚の絵」の中の父母―子としての井上靖
□9月22日　井上靖短編小説を読む③『信康自刃』
□10月20日　ひつじのぱたぽん　おはなしのじかん
□10月27日　耳でたのしむ読み語りの世界
□11月3日　文化の日無料開放・クイズラリー
□11月3日　企画展「井上靖と万葉の世界」展（～1月13日）
□11月17日　井上靖講座③「井上靖と万葉の世界」
□11月30日　旭川市井上靖記念館運営協議会②
□12月15日　井上靖短編小説を読む④『帽子』
□12月16日　井上靖記念館青少年エッセーコンクール審査会
□1月12日　文学講座②井上靖の万葉集―夜の声をめぐって―
□1月19日　企画展「井上靖　人と文学Ⅲ」展（～4月21日）
□1月20日　井上靖記念館青少年エッセーコンクール表彰式
□1月26日　文学講座③　井上靖―小説の方法―
□2月21日　大人のためのおはなし会
□2月25日　井上靖講座④「人と文学Ⅲ」
□3月1日　全国文学館協議会共同展示　文学と天災地変
　井上靖『小磐梯』の世界展（～3月31日）
□3月9日　井上靖短編小説を読む⑤『幽鬼』

平成二十五年度のご案内

企画展

「井上靖と旭川」展　四月二十七日(土)～七月二十八日(日)
「井上靖　人と文学Ⅳ―戦争体験―」展　八月三日(土)～十一月十七日(日)
「井上靖　現代文明批判」展　十一月二十三日(土)～二月十六日(日)
「井上靖と天災地変」展　二月二十二日(土)～四月

講座・講演会

井上靖講座　(①五月十八日②八月二十四日③十二月七日④三月八日)
文学講演会（二回）　①六月十五日②七月二十日・二十一日
文学講座（二回）　九月～一月

青少年エッセーコンクール

募集開始　六月中旬　入賞作発表　十一月

自主事業

文学散歩　六月二十九日
映像の世界　十月十一日
夏休みおはなし会　七月三十日・八月六日
ロビーコンサート　八月三十一日
耳でたのしむ読み語りの世界　十月下旬
大人のためのおはなし会　二月中旬

読書会

井上靖短編小説を読む
①六月八日『桃李記』　②九月七日『狼災記』
③十一月九日『天目山の雲』　④二月八日『比良のシャクナゲ』
赤い実の洋燈読書会（毎週土曜日）
「赤い実のランプふぁんクラブ」との共催読書会

企画展の会期及び自主事業等の開催日は変更となる場合がありますので、ご了承ください。
詳細については、当館までお問い合わせください。
なお、当館ホームページでもご案内しています。
www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/bunkashinko/inoueyasusi/

◇編集後記◇

昨年度は、井上靖邸書斎・応接間を公開し、全国から多くの来館がありました。大変御好評をいただいておりますが、書斎・応接間前で靴の脱着をしていただく御面倒をおかけしています。そのため来館者の御不便を少しでも緩和できるようにと、昨年の夏に当館の支援ボランティア団体である井上靖ナナカマドの会からベンチを御寄贈いただき、活用しています。

また昨年度は新たな試みとして、青少年エッセーコンクール、北海道教育大学との連携、全国文学館協議会の共同展示を実施しました。それらの事業をとおして詩人の吉増剛造氏をはじめとし、様々な方との出会いがありました。当館にとってこの出会いは大きな財産です。今後もこのような出会い、人とのつながりを大切にしていきたいと思います。

◇年度別観覧者数◇

年　度	人　数
平成5年	12,703
平成6年	20,385
平成7年	16,599
平成8年	14,893
平成9年	14,639
平成10年	16,832
平成11年	15,848
平成12年	13,486
平成13年	11,450
平成14年	12,475
平成15年	13,496

年　度	人　数
平成16年	10,077
平成17年	7,772
平成18年	6,331
平成19年	7,267
平成20年	6,740
平成21年	6,003
平成22年	6,085
平成23年	5,830
平成24年	8,450
総入館者	227,361